

日露戦争・ポーツマス条約締結百周年記念 国際シンポジウム

開催日時：2005年5月19-22日（日英同時通訳付）

場 所：国際交流センター小村（寿太郎）記念館大会議室（宮崎県日南市）

プログラム

5月19日（木）11:00、受付開始

13:00、オープニングセレモニー

開会の辞

日露戦争研究会会長挨拶：松村正義

来賓挨拶1：中山太郎（元外相）

日南市長挨拶：谷口義幸

ドイツ日本研究所長挨拶：Florian Coulmas

来賓挨拶2：アレクサンドル・ホホエフ（駐日ロシア大使館参事官）

来賓挨拶3：枝村純郎（元駐ロシア大使）

来賓挨拶4：Charles Doleac（ポーツマス日米協会会長）

閉会の辞

14:30、ティー・ブレイク

14:45、基調講演1、松村正義（日露戦争研究会会長）

「日露戦争とポーツマス講和条約」

15:45、基調講演2、Ian Nish（LSE 名誉教授）

「小村寿太郎、日英同盟と日露戦争」

17:00、アトラクション（郷土芸能）

18:00、ウェルカム・レセプション（日南市主催）

5月20日（金）10:00-12:00 パネル1「日露戦争と中国・台湾」（責任者：川島真）

パネリスト1：曹大臣（南京大学）「日露戦争期における中国における日本の領事制度」

パネリスト2：傅琪怡（台湾国立政治大学）「日露戦争と台湾総督府の原住民政策」

パネリスト3：小池重喜（高崎経済大学）「日露戦争と下瀬火薬システム」

討論者：伊藤信哉（松山大学）、中見立夫（東京外大）、小野圭司（防衛研究所）

13:30-15:30 パネル2「日露戦争の起源」（責任者：伊藤之雄）

パネリスト1：奈良岡聰智（京都大学）

「日露戦争の起源と日本外交：加藤高明の動向を中心として」

パネリスト2：Igor Lukoianov（ロシア史研究所、ペテルブルク）

「ロシアから見た日露戦争の起源：外交上の誤算と専制政治の誤り」

パネリスト3：君塚直隆（神奈川外語短大）「日英同盟と日露戦争の起源」

討論者：広野好彦（大阪学院大学）、井口治夫（名古屋大学）、I. Ruxton（九州工業大学）

16:00-18:00 パネル3「日露戦争と朝鮮半島」（責任者：李盛煥）

パネリスト1：石和静（世宗大学）「韓国保護問題をめぐる日露対立」

パネリスト2 : D.B.Pavlov (モスクワ工科大学)「駐韓ロシア公使の活動と韓国王室」
パネリスト3 : 浅野豊美 (中京大学)「日露戦争後の保護国朝鮮の治外法権廃止問題」
討論者 : 荒木義修 (武蔵野大学) I.Saveliev (名古屋大学) 菅野直樹 (防衛研究所)

5月21日(土) 10:00-12:00 パネル4「外交・国際関係」 (責任者 : 加藤史朗)

パネリスト1 : Gerhard Krebs (ベルリン自由大学)「ドイツの日露戦争政策」
パネリスト2 : Olavi K.Fält(オウル大学)「日露戦争中のフィンランド・日本協力関係」
パネリスト3 : Sven Saaler(東京大学)

「日露戦争と日本外交における『人種闘争論』の浮上」

討論者 : 田嶋信雄 (成城大学) 稲葉千晴(名城大学) 、 Yakov Zinberg(国士舘大学)

13:30-15:30パネル5「日露戦争と社会」 (責任者 : 飯倉章)

パネリスト1 : 土屋好古 (日本大学)「日露戦争とロシア社会 :

戦争支援活動の問題によせて」

パネリスト2 : V.G. Datsishen (クラスノヤルスク大学)「シベリアの日本人捕虜」

パネリスト3 : John Ferris (カルガリー大学)「英国観戦武官 A.Haldane とその日記」

討論者 : 一ノ瀬俊也 (歴史民族博物館) 宮脇昇 (立命館大学)

松本佐保 (名古屋市立大学)

16:00-18:00 パネル6「日露戦争と経済」 (責任者 : 平井友義)

パネリスト1 : Richard Smethurst (ピッツバーグ大学)

「アメリカ資本と日露戦争での日本の勝利」

パネリスト2 : 江夏由樹 (一橋大学)「日露戦争後、中国東北地域における日本企業」

パネリスト3 : 鈴木俊夫 (東北大学)「日露戦時公債発行とロンドン市場」

討論者 : 丸山直起 (明治学院大学) 横山宏章 (北九州大学) 石川亮太(佐賀大学)

22日(日) 09:30-11:30パネル7「日露戦争と文学」 (責任者 : 与那覇恵子)

パネリスト1 : Alexandre Kabanov (ペテルブルク東洋学院)

「ロシアの日露戦争ノンフィクションと回想録」

パネリスト2 : Faye Yuan Kleeman (コロラド大学)「明治日本の女性と戦争」

パネリスト3 : 岩見照代 (麗澤大学)「国民化 してゆく女たち」

討論者 : 生田美智子(大阪外大) Yulia Mihailova(広島市立大学) 井上ラウラ(歴史学者)

13:00-15:00 パネル8「日露戦争と民族」 (責任者 : 加納格)

パネリスト1 : István Szerdahelyi (ヨトヴォス・ロランド大学)

「オーストリア・ハンガリー帝国の中のハンガリーと日露戦争」

パネリスト2 : Georgi Anchabadze (トビリシ・カフカス大学)

「日露戦争とグルジア・カフカスの自由主義運動」

パネリスト3 : T.R.Sareen (インド歴史学協会元会長)「日露戦争とインドの民族覚醒」

討論者 : 羽場久々子 (法政大学) 伊藤順二 (福井県立大学) 中村平治(東京外大)

15:30-17:30パネル9「ポーツマス講和と日露戦争後の世界」 (責任者 : 千葉功)

パネリスト1 : John Chapman (グラスゴー大学)「イギリスの対露・対独政策」

パネリスト2 : Rotem Kowner (ハイファ大学)「ヨーロッパにおける日露戦争の影響」

パネリスト3 : 小林道彦 (北九州大学)「小村寿太郎と日露戦後経営」

討論者 : 寺本康俊 (広島大学) 斎藤治子 (ユーラシア研究所) 李盛煥 (啓明大学校)

目的：2004年日露戦争百周年を迎えた。これにあわせて、決して研究が十分ではなかった日露戦争に関して、今日的視点から、再検討する必要に迫られている。というのも、日露戦争が日本とロシアとの間の戦争だったというだけでなく、朝鮮半島や中国を戦場としたこと、欧米列強が背後でかかわっていたこと、戦争の結果、アジアの民族運動を刺激したことなど、国際関係も重要となっている。さらに、これまで朝鮮半島や中国から視点が、日露戦争研究では欠落していた。くわえて、経済的・広報的な視点および文学のかかわりなど、無視されていた。こうした新たな問題を解決するため、プレ・シンポジウムを「日露戦争百周年記念シンポジウム in 明治村・犬山市」を2004年10月2-3日に開催した。そのシンポジウムを踏まえて、小村寿太郎外相の生誕の地である日南市では、より大規模な国際学術シンポジウムを組織して、内外の関心を高め、日露戦争の真の姿を解明していく。

研究成果：日露戦争研究会編『日露戦争研究の新視点』（成文社、2005年5月）

New Perspectives of the Russo-Japanese War: Centenary Symposium in Nichinan City in May 2005, ed. Russo-Japanese War Association, (2006年出版予定の会議報告書、日本語・英語)

主催：日露戦争研究会（会長：松村正義帝京大学元教授）・小村寿太郎侯奉賛会（会長：日南市長）・ドイツ日本研究所（ドイツ文部省）

日露戦争研究会事務局：名城大学都市情報学部稲葉研究室、509-0261 岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3 Tel:0574-69-0127 Fax:0574-69-0155 chiharu@urban.meijo-u.ac.jp

Homepage: <http://www.urban.meijo-u.ac.jp/zchiharu/rjw/head.htm>

小村寿太郎侯奉賛会事務局：887-858 宮崎県日南市中央通1-1-1 日南市役所総務課

内Tel:0987-31-1113 Fax:0987-23-1853 e-mail: *_SOSOMU@city-nichinan.jp

Homepage: <http://www.city-nichinan.jp/>

協力：日南市

後援：宮崎県、外務省、日本学術振興会、国際交流基金、駐日ロシア大使館、帝京大学、サントリー文化財団、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、日本経済新聞社、西日本新聞社、宮崎日日新聞社、共同通信社宮崎支局、時事通信社、NHK宮崎放送局、MRT宮崎放送、UMKテレビ宮崎、ビューティーヴィーケーブルテレビ（株）

共催企画（「日本におけるドイツ年」プログラム）

日露戦争百周年記念展「ヨーロッパから見た日露戦争：版画新聞・絵葉書・錦絵」

場所：日南市、飫肥城松尾の丸

日時：5月18日 6月5日

主催：ドイツ日本研究所、日露戦争研究会、小村寿太郎侯奉賛会

後援：駐日ドイツ大使館、サントリー文化財団

協力：ドイツ・ノイルツピン市美術館、静岡県立中央図書館他